

2016.10.30 年間第3 1主日

イエスを見ると金持ちも生き方が変わる

ルカ 19章 1-10 節

(そのとき、) イエスはエリコに入り、町を通っておられた。そこにザアカイという人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見る事ができなかった。それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。これを見た人たちは皆つぶやいた。「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった。」しかし、ザアカイは立ち上がって、主に言った。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

説教

過越の祭りに出るためにイエスの弟子たちはエルサレムに向けて旅をしています。エリコはエルサレムから約 27 キロのところにある街だそうです。そういえば、良きサマリア人の話はエルサレムからエリコに下る険しい山道での出来事でした。そのエリコの街にイエスが入ったときにザアカイという悪いことをして(悪徳徴税人のかしら)金持ちになったチビの男がイエスを目みようと木に登ります。その木の下を通りかかったときイエスはザアカイに声をかけ泊めてくれといひます。ザアカイは喜んで財産の半分を貧しい人にあげる、まただましたと金は4倍にして返すといひ、それを受けてイエスは

今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。

といったというお話です。

つい先日、東北の震災後のレポートのテレビの報道番組をみました。震災直後におきた津波で海辺のホテルが流されてしまいます。そのホテルは天皇陛下がお泊りになったこともある老舗ホテルでした。逃げ延びたホテル経営者一家が避難所生活を送っているとき、見舞いに来た陛下をお見かけした、と彼は語ります。避難生活に疲れガッカリしていた彼は陛下にお見舞いされたとき、ホテルを再建すると強く思ったそうです。そして5年後に彼はホテルを再建しました。陛下がふたたび東北にやってくると聴き、彼はまた陛下を一目見ようとでかけます。一言でいいから、お礼をいいたかったと彼はいます。するととつぜんカメラは再建されたホテルを映し出します。そこには皇后さまがいて、宿泊したことのあるホテルを前にホテル名が変わりましたね、なんてコメントをしていました。（陛下と皇后は別行動をとっていたようです）

ザアカイの物語は回心の物語として伝わっているのですが、この報道番組をみていてこれは貴人伝説でもあるなあと感じました。うろ覚えのなので出典がわからないのですが、古来の日本には貴族、王族が旅の宿で風呂を使った残り湯を尊いものとしていて、病氣直しなどにその残り湯をつかったという伝説があります。ザアカイの話はこの貴人伝説のエリコバージョンでもあるなあと思いました。きょうのタイトルのとおり「イエスを見ると、金持ちも生き方が変わる」ことをザアカイは体験しました。

イエスはいまの世の中にもあらわれている、姿を変えてイエスはわたしたちのそばにいるという、キリスト教信仰があります。

『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇

いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』 マタイ 25:37-40

ザアカイは実際のイエスを見ようと木に登りました。わたしたちは実際のイエスの姿を拝見することはできないかもしれません。しかし、信仰ではイエスはいつもわたしたちのそばにいます。わたしたちが小さい者の中にイエスを見出し、そこから力をいただき、こころ新たにしてイエスの道を歩むことができるかもしれません。
